C:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpg**いちょうだより**

平成29年3月14日

天童中部小学校

校長　長岡佳孝

C:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpgC:\Users\user\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\IE\KCWUQZNQ\sgi01a201309211300[1].jpg

学校評価アンケートの結果をお知らせいたします。

Ⅰ　同一学年の３年間での変化について

○「１　家庭で宿題や予習復習をするなど、計画的に学習している」という項目について、２年前と比較し、「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が増加しています。

○「２　考えや価値観の違いを受け入れられるようになっている」という項目について、２年前と比較し、「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が増加しています。

○その他の項目「３　善悪の判断や規範意識は学年に応じて身についている」「５　学校はきやすい場になっている」については微増微減があるものの高いパーセンテージで推移しています。

△「４　体を動かしたり、ゲームの時間を決めたり、健康を考えた生活をしている」という項目について、高学年になると低下する傾向も見られます。

１の結果から、学年がすすむにつれて、学習に対する意識が高まり自ら学習に取り組む姿が見られるようになっていると考えられます。６年生は昨年度よりも大きく伸び、最高学年での学習に対する意識が高まっていることが伺えます。

　２の結果から、学級や学年等の授業をはじめとする学校生活を経験していくことで、考えや価値観の違いを受け入れることができるようになっていると考えられます。

Ⅱ　２８年度の学年ごとの調査結果から（４＝当てはまる　３＝やや当てはまる　２＝あまりあてはまらない　１＝あてはまらない）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １　計画的に学習 | | | | | | | | |  | ２　価値観の違いを受け入れる | | | | | | |  | ３　善悪の判断と規範意識 | | | | | | | | | | | | |
|  | １年 | | ２年 | | ３年 | ４年 | ５年 | ６年 |  |  | １年 | ２年 | ３年 | ４年 | ５年 | ６年 |  |  | | １年 | | ２年 | ３年 | | ４年 | | ５年 | | ６年 | |
| 4 | 28 | | 17 | | 26 | 16 | 31 | 24 |  | 4 | 18 | 14 | 18 | 35 | 29 | 33 |  | 4 | | 45 | | 39 | 26 | | 48 | | 53 | | 60 | |
| 3 | 54 | | 54 | | 49 | 50 | 43 | 54 |  | 3 | 64 | 79 | 72 | 60 | 61 | 61 |  | 3 | | 48 | | 58 | 49 | | 43 | | 42 | | 36 | |
| 2 | 14 | | 25 | | 22 | 30 | 23 | 19 |  | 2 | 17 | 6 | 10 | 16 | 8 | 6 |  | 2 | | 6 | | 4 | 22 | | 8 | | 3 | | 4 | |
| 1 | 4 | | 5 | | 4 | 3 | 3 | 4 |  | 1 | 1 | 2 | 0 | 3 | 3 | 0 |  | 1 | | 1 | | 0 | 4 | | 1 | | 2 | | 0 | |
|  |  |  | |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | ４　健康を考えた生活(４と３の割合) |  |  | |  | | |  | |  | |  | |  |
| ４　健康を考えた生活 | | | | | | | | |  | ５　学校は行きやすいか | | | | | | |  |  |  | |  | | |  | |  | |  | |  |
|  | １年 | | ２年 | | ３年 | ４年 | ５年 | ６年 |  |  | １年 | ２年 | ３年 | ４年 | ５年 | ６年 |  |  |  | |  | | |  | |  | |  | |  |
| 4 | 25 | | 22 | | 27 | 16 | 16 | 17 |  | 4 | 43 | 29 | 46 | 37 | 44 | 37 |  |  |  | |  | | |  | |  | |  | |  |
| 3 | 51 | | 41 | | 50 | 45 | 50 | 42 |  | 3 | 50 | 60 | 48 | 55 | 49 | 52 |  |  |  | |  | | |  | |  | |  | |  |
| 2 | 21 | | 35 | | 19 | 34 | 27 | 36 |  | 2 | 6 | 8 | 6 | 8 | 6 | 10 |  |  |  | |  | | |  | |  | |  | |  |
| 1 | 3 | | 2 | | 4 | 5 | 7 | 5 |  | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 |  |  |  | |  | | |  | |  | |  | |  |

４の結果から、学年によるばらつきはあるが、傾向として高学年になるにつれ「体を動かしたり、ゲームの時間を決めたり、健康を考えて生活している」項目の数値の低下が見られます。全国学習状況調査の「１日うちでＴＶをみたりゲームをしたりする時間」が全国に比べ多い結果とも重なります。今後も学校やＰＴＡでメディアコントロールの取り組み積み重ねていくことが大切であると考えます。

Ⅲ－１　伸びた点

「自分から学習に取り組むようになってきた」「相手のことや周りのことを考えて生活するようになってきた」ことについては半数またはそれ以上の保護者の方が「当てはまる」と回答をされています。その他の内容では、「感情のコントロールができるようになってきた」「話す内容やタイミングを考えることができるようになった」など、相手とのかかわりに関しての成長の姿が見られました。

Ⅲ―２　意識して努めた点

「がんばりを認める」「子どもとの時間のあり方を工夫する」「お子さんの困り感をお子さん自身で乗り越えたり解決したりできるよう励ます」ことに関して半数から３分の２の保護者の方が「当てはまる」と回答されています。その他の内容では、「友だちとの関わり方」「周りの状況を見てやるべきことを判断すること」などⅢ－１と同様、相手とのかかわりに関して、そして「早寝早起き」「食生活」など生活習慣の確立に関して意識されている保護者の方が多く見られました。

Ⅲ－３　協力しながら努力していきたい点

「お子さんのがんばりを認める」については半数以上、「お子さんの困り感をお子さん自身で乗り越えたり解決したりできるよう励ます」ことについては３分の２以上の保護者の方が「当てはまる」と回答されています。その他低学年では友人との関わり、高学年になるにつれ諦めず努力することに関しての記述が多く見られました。

保護者の皆様が、お子さんの成長を認め、お子さんの自立に向け困り感に寄り添い、見守り励まして下さっている姿が表れているように感じます。学校生活の中でも子どもたちの日々のがんばりを励まし、お子さんが困り感を乗り越え解決できる様に今後もさらなる支援をしていきたいと考えますのでどうぞよろしくお願いします。お忙しい中アンケートにご協力頂きありがとうございました。